

認知症の人目線 VRで体感

【美唄】記憶力や判断力の低下を伴う認知症の症状について理解を深めてもらおうと、仮想現実（VR）技術を活用した体験型講座が1日、中央小4年の児童を対象に行われた。

講座は市が企画。専門講師を招き、認知症の当事者が自身の体験を語るインタビュー動画を視聴したり、VR映像の流れる専用ゴーグルを装着し認知症の人の視点を疑似体験したりした。

参加した児童39人は、空間認識能力の低下による階段の下りにくさや、実際には存在しない人物が見える「幻視」などを体感。立ち上がって足元をのぞき

込んで確かめたり、首を左右に振ったりする姿が見られた。

大場結衣さん(9)は「認知症

の人が感じる不安な気持ちが分かった。普段通りに優しく接していきたい」と話した。

（黒瀬祐生）

仮想現実（VR）技術を使ったゴーグルで認知症の人の視点を疑似体験する児童ら

美唄市 中央小児童に講座

